

# こころのお便り

杉並区立高井戸第四小学校

校長 本橋 忠旗

指導教諭 早川 宏（たかし教室教員）

## 1. 子供の「言い訳」「言い分」



- ◎ 子供が何か良くないことをしてしまい、人に迷惑をかけたときは、私たち大人は子供に謝罪の行動をとらせようと、「ごめんなさい」の一言を言わせようとしています。
- ◎ ところが、子供は「ボクはわるくない!」「〇〇さんがわるいんだ!」「謝りたくない!」と、なかなか「ごめんなさい」は言いません。自分には非がないことを主張すると、「言い訳をしてはいけません!」と叱られる。こんな光景が時々見られます。
- ◎ さて、この「言い訳」、或いは「言い分」。良くない意味で使われることが多いですが、実は、子供の成長にとって「言い訳」や「言い分」が、大切な役割を果たすことが多いのです。

- 言い訳や言い分を話すことにより、つまり状況、物事の流れや因果関係、自分の気持ち、相手のことなどを言語化することにより、感情が静まり、ごちゃごちゃした頭の中が整理されます。そうするとあらためて事態を振り返ることができ、自分のこと、相手のことを考えやすくなります。
- 「ボクの話聞いてくれない」という思いが子供に積み重なると、思いが満たされないことが続き、人への信頼感も育ちに小さくなります。
- 「言い訳」「言い分」を主張することは、自分の生命や心身の健康を守るための人間の本能の一つです。それをあまりに否定しすぎると、心身の健康にはよくありません。
- 謝罪という行動だけを求めすぎると、それさえ済ませば、嫌な時間や場所から逃れられることを学ぶことになってしまう恐れがあります。

- ◎ 大人たちは日々忙しいし、その場はとにかく謝っておいたほうがよいと判断されることもあるでしょう。しかし、時には言い訳でも言い分でも、子供の話をじっくりと聞いて受け入れたうえで、一緒に自分のことや相手のことを考える機会があってもいいでしょうね。

※ 私は、特に高学年の子供には、「言いたいことを思う存分に言っていいよ。途中で口をはさまないし、否定しないでじっくり聞くから、いっぱい話して!」と伝えます。すると子供は思う存分に話をします。自分が有利になるような話をすることもあります。話をし尽くすと、もう満足げな表情。こちらが何も言わなくても、「ボクもわるいことしちゃったなあ」と、しみじみ言うことも多いです。（参考までに…）

（裏面へ）

## 2. 「もっとやらせたい」という気持ち・・・

- ◎ ふだんは、勉強することが嫌いな子供が、頑張って学習課題を仕上げると、私たち大人はとても嬉しくなりますね。そして…、

「もっとやらせれば、もっとできるようになるかもしれない」

「もっと難しい課題をやれば、もっと学力を伸ばせるかもしれない」



と思い、さっそく課題の分量を上乗せしたり、さらに難易度をアップさせた課題を追加させたりすることがあります。子供の成長を願う大人の気持ちはよくわかりますが、実はここが誰もが陥りやすい「落とし穴」です。



- ◎ 例えば、登山をしている状況を想像してみてください。

頑張って歩いて、頂上にやっとたどり着いた！ やったあ！ と思っていたら、  
「ここは頂上ではないよ。あそこが頂上だよ」と言われ、そちらを見ると、まだ  
その先に頂上があった・・・ まだ歩かなければいけない・・・

これでは、気持ちが落ち込み、意欲も失われてしまうでしょうね、学習も同じです。やったあ！頑張った！と達成感でいっぱいになっていたら、さらに課題が追加されてしまった、となるわけです。

- ◎ 学力を高めたり、何かができるようになっていくためには、一度にたくさん頑張らせて心身を消耗させ、「もう二度と勉強はしたくない」と思わせるよりは、その都度ゴールを決め、余裕をもって少しずつの頑張りを継続させるほうが、「力」として蓄えられます。

勉強することがあまり好きでない、苦手感をもっているケースでは・・・

◇あらかじめ学習する分量や範囲を決めておくこと。ゴールを決めておくと、どれくらい頑張ったらよいか見通しをもつことができ、意欲を持続しやすい。

◇余力があっても、時間が余っても、はじめに決めた通りに終わりにすること。「できた！」「やった！」という達成感で締めくくる。

◇「ボク、もっとできるよ」と、余力を残したところで終わると、次回につながりやすい。

